

ECOツーリズム



105号
2025. Spring
Vol.27 No.3

対談
自然資源を地域の力に：

地域の学びと行動の起点となる 調査活動「リーフチェック」

安部真理子氏（日本自然保護協会）
松本 毅氏（YNAC クラシック、屋久島公認ガイド）

活動報告

2024

（2024年4月1日より2025年3月31日までの活動）

世界のエコツーリズムサイト
アメリカ三大トレイル
パシフィック・クレスト・トレイルをゆく

学生の活動

取組紹介

現場から

クリッピング海外情報

事務局通信



事務局通信

編集後記

旅行観光業界専門誌トラベルジャーナルが3月末をもって61年の歴史に幕を下ろした。海外旅行業界紙のパイオニアとしてまたナビゲーターとして隆盛を誇った同誌も、デジタル時代を迎え旅行市場が団体旅行から個人旅行に移るに連れ広告出稿が年々減少、近年はインバウンドや国内旅行に軸足を移し懸命に頑張ってきたが、遂に力尽きたというところだろう。20年間同誌の編集担当責任者として在籍した者にとっても一時代が終わったという感はない。

1964年の海外観光旅行の自由化で口火を切った日本人の海外旅行者は70年代から80年代にかけ爆発的な伸びをみせ、大衆海外旅行時代の波は地球のいたるところで日本人旅行者を観かけることになった。

だがそういった高度成長時代の陰で観光客の増大が放っておけば地球環境にやがて負の影響をもたらすことも懸念され始めた。互いに競争を繰り返しながらも業界の諸課題に共通して取り組もうとトラベルジャーナルの一室に中堅社員有志が定期的に集まり議論風

法人会員紹介

一般財団法人 ロングステイ財団

弊財団は1992年設立され、国内海外のロングステイ（長期滞在旅行）の普及促進を推進している団体です。



ベルトラ株式会社

現地体験型アクティビティ専門予約サイト、『ベルトラ』を運営。世界150か国、2万種類以上の体験を取り扱っています。



株式会社はとバス

はとバスでは、サステナビリティ理念のもとSDGsの取り組みを推進し、その一環でエコツアーを企画しています。



愛媛県

瀬戸内海や宇和海、西日本最高峰の石鎚山など、豊かな自然を活かした地域の活性化に取り組んでいます。



会議等実施・派遣報告

（2025年3月～2025年5月）

- 3/18 理事会
- 4/3 「持続可能な地域づくり」のための「エコツーリズム活用」ウェビナー実施
- 5/16 第1回運営役員会
- 5/21 理事会

JES行事予定

（2025年6月～）

- 6/1-2 岐阜県高山市エコツーリズムガイド講習会
- 6/6 大分県アウトドア推進協議会総会で保険について講義
- 6/26 総会

■法人会員 企業・団体名：愛日緑化造園株式会社 / NPO法人赤目四十八滝渓谷保勝会 / 朝日テクノ株式会社 / 奄美群島エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人移住・交流推進機構 / 岩手県二戸市 / 合資会社浦内川観光 / 一般社団法人エコロジック / 愛媛県 / NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会 / 大分県アウトドア事業推進協議会 / 一般社団法人小笠原村観光協会 / 沖縄県環境部自然保護課 / 株式会社オーシャンズ / 有限会社オズ / 株式会社風の旅行社 / 環白神エコツーリズム推進協議会 / 岐阜県飛騨市 / 一般財団法人休暇村協会 / ぐりんびーす株式会社 / くるくるはんのう / 下呂市エコツーリズム推進協議会 / 神津島エコツーリズム推進協議会 / 五色ヶ原の森案内人の会 / こしきツアーズ株式会社 / 株式会社コスモホテルマネジメント / 株式会社五千尺 / 駒鳴集落を守る会 / 特定非営利活動法人 SATOMORI / サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 / 株式会社ジェーシービー / 株式会社 JCB トラベル / 一般財団法人自然公園財団 / 株式会社 JTB / 株式会社 JTB ガイアレック / JTB 協定旅館ホテル連盟 / JTB グループ労働組合連合会 / 株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル / 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン / 支笏ガイドハウスかのあ / STAR FOREST / 特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館 / 一般社団法人全国旅行業協会 / 全日本空輸株式会社 / 合同会社 solairodays / 大山山麓・日野川流域観光推進協議会 / 株式会社高田松原 / 谷川岳エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人対馬 CAPPA / 東京都 / 東京都小笠原村 / 公益財団法人東京観光財団 / 東急ホテルズ&リゾーツ株式会社 / 東武トップツアーズ株式会社 / 東北リゾートサービス株式会社 / 一般社団法人 大山観光局 / 富山県上市町 / 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社 / 公益社団法人日本観光振興協会 / 日本航空株式会社 / 公益財団法人日本交通公社 / 公益財団法人日本修学旅行協会 / 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会 / NPO法人日本ヘルスツーリズム振興機構 / 株式会社日本旅行 / 一般社団法人日本旅行業協会 / 株式会社博報堂 / 株式会社 はとバス / 東近江市エコツーリズム推進協議会 / 特定非営利活動法人 東村観光推進協議会 / 東日本旅客鉄道株式会社 / NPO法人飛騨小坂 200 滝 / 株式会社飛騨の森でクマは踊る / 株式会社ピッキオ / 株式会社フィールド & マウンテン / 福島県北塩原村 / 富士急行株式会社 / 株式会社 FReX / ヘッドオフィスジャパン株式会社 / ベルトラ株式会社 / 北海道弟子屈町 / 一般社団法人松本観光コンベンション協会 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 株式会社未来政策研究所 / 宮崎県串間市 / 株式会社モンベル / 公益財団法人屋久島環境文化財団 / 屋久島里めぐり推進協議会 / 株式会社ハヶ岳登山企画 / 株式会社やまぼうし / NPO 法人湯来観光地域づくり公社 / 一般財団法人ロングステイ財団

（2025年4月末現在）

ECOツーリズム Vol.27 No.3 通巻 105 号 Spring 2025

発行 一般社団法人日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケビル3 階
TEL. 03-5437-3080 FAX. 03-5437-3081 Email. ecojapan@alles.or.jp Web. https://ecotourism.gr.jp/
発行日 2025年5月30日
発行人 田川博己（会長）
編集長 海津ゆりえ（運営役員）
企画・編集 高梨洋一郎（副会長）／山田桂一郎、辻野啓一（運営役員）／水谷初子（事務局長）、高野千鶴 赤間亜希（事務局）
デザイン 株式会社アートポスト

上段：鹿児島県出水市のツルの飛び立ち、下段：北海道津別町の雲海ガイドツアー © ノンノの森ネイチャーセンター

【受賞団体と講評】

賞	受賞団体	評価のポイント
大賞	支笏ガイドハウスかのあ（北海道）	エコツアー事業のみならず、地域の各主体との連携や環境保全など、活動と役割が多岐にわたっている。幅広い年齢層、病気や障害を抱える子どものツアー受入も積極的に行われ、独自の形状のカヌーを使用する等、参加者同士のコミュニケーションや自然に対する理解、学びを促す工夫も充実している。エコツーリズムによる「まちづくり」の牽引役として今後が期待される。
優秀賞	特定非営利活動法人東村観光推進協議会（沖縄県）	「体験から滞在へ」をキーワードにプログラムの企画などを行い、従来の観光と異なる視点から「選ばれる観光地域作り」に取り組んでいる。また、ルールの策定やフィールドの管理等を村内の事業者等と連携し、「保護と利用の好循環」に重要な役割を果たしている。教育機関と連携した次世代の担い手育成にも取り組んでおり、長年にわたり地域におけるエコツーリズムを牽引してきた。
	屋久島里めぐり推進協議会（鹿児島県）	山域に集中する屋久島の自然観光に対し「里のエコツーリズム」の視点で長年取組を行っている。質の高いプログラムの企画運営のみならず、利用の分散や地域活性化など、社会課題への対応についても考慮されており、各集落の自立的な活動を促進しつつ、里の文化の継承にも重要な役割を果たしている。
特別賞	エコツアー・カラフルウェーブ（沖縄県）	海域の観光が主流である座間味島において、陸域のツアーを通じて独自の視点から来訪者に地域の魅力を伝えている。幼稚園や農家など地域の多くの主体と連携したプロジェクトを立ち上げるなど、地域活性化に向けた取組も積極的に行っている。
	くるくるはんのう（埼玉県）	市内の生産者と市内外の飲食店を始めとした異業種同士をつなげる「生産者×クリエイターマッチングツアー」や、農産物の活用を考える会、クリエイター向けの農作業体験など、企業間取引の創出を目的とした企画を開催している。地域の資源と担い手に着目し、企業を含めた様々な主体間の交流と連携を促す役割を果たしており、地域振興に寄与している。
	特定非営利活動法人埼玉ハンノウ大学（埼玉県）	市域全体を大学の「キャンパス」とし、地域の自然環境と歴史文化を活用したエコツアーを「授業」に見立てて生涯学習、環境教育活動を行っている。ツアーでは研究者や地域事業者との連携による「学び」の要素を加え、参加者に「まちづくり」を考えるきっかけを提供していると同時に、幅広い年齢層の参加者が楽しめる工夫がなされている。
	STAR FOREST 角田 夏樹（和歌山県）	海外での経験をもとに、星空ウォッチングを質の高いツアーと環境学習プログラムに仕立てて来訪者に提供している。ウミガメの産卵地としての環境と星空保護の連関したストーリーがユニークで、農業との連携やふるさと納税の返礼品としてのツアー提供を通じて、地域振興にも積極的に寄与している。
	地球のかげら HIRAODAI（福岡県）	平尾台全体を「学び場」として捉え、地域の自然と歴史文化を活かしたガイド事業を行っている。小規模事業ながら多種多様なプログラムを企画開催し、地場産品の活用、植生調査、清掃活動等を通じてエコツーリズムの基本理念に対してバランスよく、かつ堅実に取り組んでおり、今後が期待できる。
	株式会社飛騨の森でクマは踊る / 安江 悠真（岐阜県）	社有林で「ツキノワグマにとつての豊かな森を学ぶフィールドワーク」と題したツアーを企画開催している。「クマの目線」と「ヒトの目線」を切り替えて森を歩いたり、クマとヒトが利用している食材を取り入れたメニューを提供するなど、参加者自らが考え、行動変容を促すための工夫がなされている。
パートナーシップ賞	朝日テクノ株式会社 / 駒鳴集落を守る会 / 特定非営利活動法人 SATOMORI（佐賀県）	地域の団体と企業が連携して環境保全・環境学習の取組を行っている。植生管理や、放棄水田における湿地ビオトープ造成など、環境向上に向けた取組だけでなく、専門性の高いスタッフによる環境学習会を通じて都市部との交流の創出にも寄与しており、里山の維持管理と利活用のモデルとなる。
	尾瀬 SDGs 探究ツーリズム委員会 / 株式会社 ブラチナマイスター（群馬県・福島県）	地域内外の関係者と企業が連携して、SDGs を素地とした探求型のエコツアーを実践している。若年層をターゲットに「学び」の要素を中心としたツアーを企画運営しており、次世代の環境意識の醸成に寄与している。発地型のエコツアーのモデルとして、事業面での継続発展が期待できる。

第20回エコツーリズム大賞（共催：環境省・JES）

令和4年度に「奥入瀬渓流エコツーリズム推進全体構想」を策定するために奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会の中に検討部会を設置し、フィールドを主に利用しているガイド団体等の参画を得て検討を行いました。全体構想策定においては、検討部会の会議の後に現場における具体的な課題やルール等について話し合うためにガイド間による意見交換（以下、ガイドミーティング）の場を設け議論を深めてきました。

全体構想が策定されれば、ひとまずは検討部会の役割は終える位置づけではありましたが、ガイドミーティングはガイド団体間の横のつながりを作る場の必要性を受けて、継続されることとなりました。奥入瀬渓流におけるこれまで

奥入瀬渓流エコツーリズム推進事業支援（青森県十和田市）
全体構想策定のプロセスが生んだ一つの成果、ガイドミーティングの場の継続

のエコツーリズム推進の中で、ガイド団体間の横の連携を求める声は幾度も挙げられており、その声に応える形でガイドミーティングが継続されたことは全体構想策定という一つの目的を達成するプロセスから生まれた一つの成果だと言えます。

令和5年度のガイドミーティングでは安全に関する認識の共有と、拠点施設等での情報発信について協議し、令和6年度はガイド間の情報集約と共有のためのweb掲示板の設置や、ツアー空き情報の発信を含めた奥入瀬渓流館ガイドカウンターの利用、ガイド団体合同説明会の開催、次年度のガイドミーティングの活動とスケジュールについて話し合い進めてきました。

当会が支援事業として関わるのは令和6年度でいったん終了しますが、十和田市と観光機構が中心となり事務局を担ってガイドミーティングは継続され、令和7年度は4月のガイド団体合同による清掃活動を初回とし、「奥入瀬渓流エコツアーガイド登録制度」の登録要件の検討を議題に加えて進めることとしています。



奥入瀬十和田湖冬パンフレット

ツル観察センターから朝の飛び立ちを観察



鹿児島県出水市はナベツルやマナヅルを中心とする1万羽を超えるツルが遠くシベリアの地から越冬のために飛来し10月から3月にかけて生息する全国でも他に例を見ない地域です。ツルが生息するエリアは江戸時代初期に食糧増産のために干拓されて出来た田んぼを中心としています。稲作との共存をはじめとする住民によるツル保護の歴史は古く、昭和22年からツルの羽数調査が始まり、昭和30年頃には中学校の生徒らによる調査活動に引き継がれ、現在に至っています。飛来するツルの数は平成9年以降1万羽を超えるようになり、

様々な課題も生まれてきました。

平成28年にはツルを観察するために訪れる人へのマナー順守や、鳥インフルエンザの広がりに対する防疫のためにツル越冬地への入域規制（越冬地利用調整）を開始。さらにツルが身近にある環境と産業振興の両立を図るために令和2年にラムサール条約湿地への登録を目指し、翌3年に登録されました。登録を機に保全と賢明な利用（ワイズユース）が求められる中でエコツーリズムの推進が掲げられました。

それまではツルが生息する干拓地が保全と利用の両立を図る主なフィールドとして捉えられていましたが、エコツーリズムの推進においては市全域を対象とし、古くは肥後と薩

摩の国境のまちとして栄えた歴史・文化的な資源との融合を目指す観光地づくりが求められるようになりました。

令和5年3月に出水市エコツーリズム推進協議会が立ち上げられ、自然と歴史をつなぐ市全体での「エコツーリズム推進全体構想」の策定と、ガイドの養成、プログラムの開発・試行が行われてきました。令和6年度には協議会の中に市内でガイド活動を行っている団体による作業部会を設け、「全体構想」の検討とガイド団体間の連携の仕組みについて全3回にわたり話し合いました。令和7年度には「出水市エコツーリズム推進全体構想」の認定と、ガイド団体の連携の深化を目指します。

出水市エコツーリズム推進全体構想策定支援業務（鹿児島県出水市）
ツルの保護から、自然と歴史が融合した観光地づくり（エコツーリズム）へ

北海道東部の津別町にて「エコツーリズム推進協議会」が発足し、JESは町の全体構想策定に向けた支援を行っています。本年度は行政機関や有識者、町内外の関係者の協力のもと、全5回の協議会を開催しました。各回では参加者へのアンケートを実施し、寄せられた意見を随時反映させながら、自然資源の活用に向けた基本方針や理念、キャッチフレーズなど、構想の骨子を形づくってきました。

津別町は森林と清流に恵まれた自然豊かな地域で、林業を主産業に、津別峠やチミケツブ湖、森林セラピー基地など、多くの魅力的な観光資源を有しています。特に、津別峠から望む屈斜路湖の雲海や星空は、訪れる人々を魅了する人気の観光景観です。一方で、豊かな自然資源を守り、観光

において適切に活用するために、ガイド人材の育成、自然環境への配慮やヒグマとの共存、安全対策などの土台づくりに向けた取組が求められるようになりました。

今年度の本協議会では、エコツーリズム推進に関する理念や基本方針について関係者間で共通理解を深めることができました。次年度以降は、これまでの議論を踏まえ具体的な自然資源の活かし方や関係者間のルール整備などを進めていく予定です。また、観光事業者と地域産業・教育分野との連携を促し、町民や来訪者への情報発信を通じて、地域ぐるみの取組として広がりを持たせていくことを目指しています。



町民学習会



宇宙ツアー © ノンノの森ネイチャーセンター

日本エコツーリズム協会（JES）
2024年度
活動報告

2024年4月1日～
2025年3月31日

津別町エコツーリズム推進全体構想策定支援業務（北海道津別町）
エコツーリズムに共感する仲間を広げる

環境・仕組みづくり（実践者サポート）

ネットワーク会議



江口氏の講演では「持続可能な地域づくりのための協働とエコツーリズムの関係性」

冒頭、環境省国立公園利用推進室からは「頼りになるのは同じような課題を持つて

いる皆さんの横の繋がりでないか。ぜひ今日のこの機会に横の繋がりを作っていただ

きたい。」という旨の挨拶がありました。

「協働のヒントと各地の事例」等についてお話があり

ました。ここでの「協働」の考え方は目指すべきゴー

ルや出すべき成果に向かうだけでなく、あらゆる不

確実性の中で地域そのものが持続していくことを目指

し、常に関係者が対話し、つながりを捉えなすことで

変化に適応しながら成長していくものであるとお話

がありました。

講演を受けて各地域で様々なステークホルダーの間

をとりもつ役割を担っている協議会の方々からは「人

口減少を受けてコミュニティや事業のあり方が変化し

ている」「協働の場に取り込む人は地域愛がある方を

選んでいる」という意見や考え方が共有されました。

講師派遣

主催	名称	実施
静岡県世界遺産課	静岡県安全快適な富士登山推進会議「エコツーリズム推進法に係る勉強会」で講演	5月
東京電機大学システムデザイン工学部	「エコツーリズム概論」を講義	9月
追手門学院大学地域創造学部	「エコツーリズム概論」を講義	10月
中京大学経済学部	愛知県のエコツーリズム発展を考える	11月
西武文理大学サービス経営学部	「ニューツーリズム論（エコツーリズム）」を講義	12月
JTB ツーリズムビジネスカレッジ	「ホスピタリティ実践」を講義	12月
J-Win（社会人女性リーダー）勉強会	環境意識をツーリズム活用で向上・継続できないか	12月
東京都自然環境部三宅島観光協会	三宅島雄山における東京版エコツーリズム「東京都自然ガイド」認定講習	12月
早稲田大学大学院経営管理研究科	エコツーリズムを活用したインバウンドツアー造成に関する意見交換	1月
株式会社 JTB	JTB 観光開発プロデューサー向けセミナーでエコツーリズムについて講演	3月

JES 主催セミナー、シンポジウムの企画・開催

実施日	名称	会場
10/3	エコツーリズムに関する消費者ニーズ調査を読み解く（JES 事務局）	Web
12/14	第 16 回 全国エコツーリズム学生シンポジウム	立教大学
1/16	日本遺産とは何か？ツーリズムの視点から探る（日本観光振興協会）	Web
2/20	インバウンド向けコンテンツセミナー：訪日旅行（インバウンド）におけエコツアーの魅力とは？（JTBGMT）	Web

イベント出展・会議出席

主催	名称	実施日
観光庁	ガイド事業に関する意見交換会に出席	4月、12月
環境省	国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム意見交換会に参加	8月、10月
ツーリズム EXPO ジャパン 2024	環境省と共同出展	9/26～29
OPMAC 株式会社	JICA 事業（フィリピン）の事後評価におけるエコツーリズム関連のアドバイス	12月～2月
日本サステナブルツーリズムイニシアティブ	47 都道府県のサステナブルツーリズムプログラムへのアドバイス	1月
環境省（JTB 震ヶ関事業部）	ネイチャーポジティブツーリズム（奄美大島、蒜山大山）	1月、2月
奈良県教育委員会	ワールドワイドラーニング・コンソーシアム構築支援事業アクティブラーニングネットワーク運営指導委員会に参加	3月

環境省

エコツーリズム推進全体構想認定協議会ネットワーク会議

環境省ではエコツーリズム推進法に基づく「エコツーリズム推進全体構想」の認定を受けた協議会を対象に年に1度、認定地域間の意見交換の場（ネットワーク会議）を設けており、弊会は企画・運営・会議進行等を業務として担当しました。

今年度は9月に東京で開催されたツーリズムEXPOジャパン2024に合わせ、リアル開催とオンラインでのハイブリッド形式で開催しました。開催時点で27地域が認定を受けており、16地域の協議会から出席がありました。

会議ではエコツーリズム推進法の所管省庁からの取組紹介、各協議会の近況報告に続き、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）江口 健介氏をお招きして「協働取組とエコツーリズム推進」をテーマに講演・ファシリテーションをいただき、意見交換を実施しました。

冒頭、環境省国立公園利用推進室からは「頼りになるのは同じような課題を持つて

いる皆さんの横の繋がりでないか。ぜひ今日のこの機会に横の繋がりを作っていただ

きたい。」という旨の挨拶がありました。

ネットワークづくり

地域や企業などの連携を後押し

奄美群島、中部山岳国立公園、長野県で講習会を開催

奄美群島では2016年度から「奄美群島エコツアーガイド認定制度」がスタートしており、当会では認定および更新のための講習会でガイド技術部分を担当しています。2024年度は群馬全体で29名が新たに認定され、累積の認定者数は205名となっています。内訳は奄美大島131名、喜界島11名、徳之島24名、沖永良部島18名、与論島21名です。

中部山岳国立公園では2024年に「乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想」が認定されたことを受け、エコツーリズムの理念や基本的な知識、ツアーにおけるガイドング技術などを習得するためのガイド講習会を実施しました。講習会は7月と12月に2回に分けて開催し受講した18名に対し当会の修了証を発行しました。参加者はガイドとして活動している方を対象としたため全員が数年のガイド経験を有しており、自

環境省による人材育成 地域のキーマンを対象に複数名で参加

環境省では、自然資源を保全しつつ観光振興や環境教育に取り組み意欲のある地域を対象に、エコツーリズムやインタープリテーション、インバウンド受入れ等に関する研修やアドバイザー派遣等の一体的な人材育成支援を行っています。本事業は（公社）日本環境教育フォーラムと当会が共同で事業を受託し、講習会の企画運営・アドバイザーの派遣等の業務を実施しました。

本研修の特徴は全国を対象に募集し「キーマン」となる人材が複数名で参加する点です。「キーマン」とされる人材は地域で中心となって活躍できるガイドや経営者、ビクターセン

ター等の施設管理者、観光協会や行政等のコーディネーターなどが想定されています。

前年に引き続き、2024年度も栃木県的那須高原でのリアル開催となり、全国11地域からの参加者と講師で、密度の濃い研修会となりました。研修会の前には各講師がオンラインでヒヤリングを行い、各地の状況や研修で期待することなどを聞き取り、当日の研修内容に活かしています。

研修会では数年後の地域の姿を各チームで考え、それに向かつてそれぞれの役割と取組を「行動計画」に落とし込むことを目標として、研修やディスカッション、カウンセリング等を

分のガイドを見直すきっかけとなり、エコツーリズム推進におけるガイドとしての役割を体系的に学ぶ機会となりました。

長野県では県内に5箇所設置されている自然保護センターを拠点としたエコツーリズムガイド養成講習会を開催してきており、これまでに霧ヶ峰、志賀高原、伊那市、乗鞍で実施してきました。講習会では長野県内でガイドとして活動する意欲のある方を対象としており在住地を限定せずに開催しています。在住地を問わない形としたため県外からも参加があり多様な属性の方から申込を得、定員30名のところ37名の応募がありました。2024年度は乗鞍自然保護センターで行い、決してアクセスの良い立地ではありませんでしたが、3日間にかわつて開催しました。

人づくり 人材の育成やガイド養成講習会の開催

当会ではエコツーリズム推進の担い手であるガイドを養成するための講習会を2005年から各地の要望を受けて開催しています。エコツーリズムの推進において地域の魅力を伝えるガイドは大きな役割を担っています。2024年度は4つの地域で講習会を開催しました。

実施しました。また、研修後には各地域への訪問を行い、現地でのフォローアップも併せて実施しています。

また、今年度は通常の研修だけでなく、過去の参加者を対象に、インバウンドを対象とした先進的なプロガイドのツアーを体験するため、1泊2日の現地視察を企画し、箱根で実施しました。



環境省集合研修



エコツーリズムガイド講習会 in 乗鞍

文：木下 淳之介（東海大学 文理融合学部 地域社会学科4年生）

芳野の誇りを未来へ ～地域と共に次世代へとつないでいく挑戦～

私たちは熊本市内西区芳野地区で深刻となっている過疎化・高齢化問題を解決するために2014年から「東海大学エコツーリズム研究会」として芳野の地域振興に関わり、様々な活動を実施してきました。地域の魅力を発掘し、芳野の“みかん暦”（フェノロジーカレンダー）を制作したり、学生目線で芳野を紹介するガイドブック“芳野トリセツ”などを作成したり、また“オレンジカクテルナイト”というイベントを実施して、地域内外に広く芳野の魅力を発信してきました。芳野の知名度はかなり上がり、交流人口も増えてそれなりの成果も感じていましたが、活動を続ける中で見えてきた課題もありました。

それは大学側が活動の主体となってしまう、地域の方々が主役にならなかったことです。それを解決する為に2022年に地域の応援団として活動する「芳野えーる」を結成し、地域を中心に活動する体制を整えました。

芳野には豊かな自然や歴史、そして一面にみかん畑が広がる風景と魅力がいっぱいありますが、これを次世代に繋いでいく為には芳野の子供たちが、進学や就職のタイミングで一度故郷を離れてしまったとしても、芳野に戻ってきてく

れることが大事だと思うようになりました。

芳野が子供たちにとって誇りに思える故郷になる為には子供の頃の体験が重要だと考え、昨年8月に開催したのが「夏休みキッズパラダイス」です。とにかく夏休みの最高の思い出を芳野で作ってもらうために、地域の大人たちに協力をしてもらって竹を使った昔遊びを再現したり、真夏の暑い中ではありましたが、水遊びやスイカ割り、流しそうめんなども一緒に楽しみました。イベントには地域内外から約60人の子ども達が参加してくれて、子供たちだけでなく、保護者からも大好評でした。子供たちに向けた活動は結果として、地域の保護者世代の人たちにもアプローチすることにつながりました。

今年度も、夏休みイベント『夏休みキッズパラダイス2025』を現在準備中です。今回は芳野に今年4月に改装オープンした金峰山自然の家「ヤマガラビレッジ」を利用して、1泊2日の子供キャンプを実施します。はじめて親元を離れて子供たちだけで体験するキャンプの中でどのようにすれば子供たちが楽しめる



昨年のキッズパラダイス

のか？そして夏休みに少しでも成長することができるか、芳野での最高の夏の思い出を作ってもらうために今年も私たちは全力で準備を進めています。



竹道具で子供と一緒に遊ぶ様子



子供たちと触れ合う様子

「芳野えーる」は、地域に寄り添う、芳野の応援団としてこれからも様々なプログラムを通して地域の方々と一緒に芳野の地域振興に取り組んでいきます。詳細は、**芳野えーるのホームページ**で <https://yoshino-yell.com/>



芳野えーる学生会（東海大学エコツーリズム研究会メンバー）

JES 学生会メンバー募集中！

興味のある方はJES事務局までご連絡ください。



学生会のインスタ

2024 年度活動報告

2025年度 JES・省庁の取組

実施事業	主催	期間
人づくり（人材の育成）		
国立公園満喫プロジェクト 人材育成支援（予定）	環境省 （日本環境フォーラム）	
奄美群島エコツアーガイド認定講習	奄美群島広域事務組合	12月上中旬
エコツーリズムガイド講習会	長野県	9月上旬
エコツーリズムガイド講習会	岐阜県中部山岳国立公園 活性化推進協議会	6月上旬
第17回全国エコツーリズム 学生シンポジウム	JES	12月中旬
環境・仕組みづくり		
津別町エコツーリズム全体構想策定 支援（予定）	津別町エコツーリズム推進協議会	
出水市エコツーリズム推進全体構想 策定支援（予定）	出水市エコツーリズム推進協議会	
第21回エコツーリズム大賞	環境省・JES	7月下旬 募集開始
ネットワークづくり		
エコツーリズム推進全体構想認定 協議会ネットワーク会議（予定）	環境省	9月



ローカルガイド



第20回エコツーリズム大賞受賞「かのあ」

エコツーリズム推進 に関する 省庁の取組

環境省自然環境局国立公園課

―地域のエコツーリズム推進を後押し―

今年度、環境省では次の取組等を実施します。

① 生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業）を通じ、市町村が組織する地域協議会が実施する魅力的なツアープログラムづくりやガイド等の人材育成等の取組を支援します。なお、今年2月に行った今年度事業の募集では、エコツーリズム推進全体構想の作成・申請を前提としなくても応募申請できるよう変更しております。

② エコツーリズムに関する優れた取組をされている個人事業者、企業及び協議会等を対象に第21回エコツーリズム大賞の募集・表彰を行い、受賞者を当省ホームページや環境白書へ掲載いたします。環境省が主催するアワードの受賞によって、受賞者は全国に向けて取組を発信・周知しやすくなります。受賞者の皆様からの多方面への発信にご活用ください。今年度も7月頃から募集を開始する予定ですので、皆様からの応募をお待ちしております。

観光庁観光地域振興部 観光資源課

―地方部におけるローカルガイドの持続的な確保・育成に向けて―

観光庁では、地方誘客の促進や持続可能な観光地域づくりに向けた様々な事業を実施していますが、今年度、新たに「地方部における観光コンテンツの充実のためのローカルガイド人材の持続的な確保・育成事業」を開始しました。

地域の魅力を伝えることができるローカルガイドの存在は地方誘客や観光消費額の向上、さらに質の高い観光を実現させ、持続可能な観光地域づくりを目指す上でも重要です。他方、各地域では報酬の低さや繁閑差によって通年での就労が困難といった課題も相まって、総じて苦慮している状況です。

こうしたことを踏まえ、観光庁では昨年度、有識者会議を設置し、特に人材に限られる地方部において、ガイド人材を持続的に確保・育成し、観光コンテンツの持続的供給や消費向上に結びつけるために必要な取組やビジネスモデルを検討してきました。令和7年3月に公表したとりまとめでは、体験商品の担い手となるローカルガイドの裾野の拡大に向け、地域において取り組む際の戦略・取組の方向性を示しました。

今年度開始した事業では、全国の複数のモデル地域での取組を通して、とりまとめで示した課題や方針を検証し、得られた知見を展開していきたいと考えています。

アメリカ三大トレイル「パシフィック・クレスト・トレイル」をゆく

長谷川 晋（一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所 代表理事、所長・長距離ハイカー）



仲間たちと超えた 4000m の峠 フォレストーパス（カリフォルニア州）

オレゴン州は川と森、そして多くの火山が特徴で、特にクレイターレイクは州の象徴とも言える。数多くの湖があり、疲れた足を浸し、飲み水を汲み、平坦な道を歩いては山に入り峠を越えた。夏の時期は積乱雲が雷を落とす。それがきっかけで山火事が近くで起き、煙に巻かれながら歩くこともあった。ビー玉大の雹に降られたこともあった。夏の終わりの頃になるとトレイル沿いには小さな黒い実がなる。ハツクルベリーと言われる野生種のブルーベリーだ。ハイカー達はこれを

火山景観が特徴的なオレゴン州

北カリフォルニアはどこか日本の山を思わせる植生が多く、山を越え谷に降りる度に小さな集落があり、人との交流も多かった。アメリカでのハイキングにも慣れ、歩いているスルーハイカー達ともすつかり顔馴染みになって一番ハイキングを謳歌していた時期だろう。カスケード山脈は火山が続く山脈で、ここまできると、長いカリフォルニアの終わりが見えてくる。PCTは半分以上がカリフォルニア州にある。

時の流れを感じる

カスケード山脈を一望

アメリカ合衆国 UNITED STATES OF AMERICA

荒涼とした大地に立ち並ぶ風車_テハチャビ（カリフォルニア州）

さあいざシエラネバダへ



アメリカにはナショナル・シーニック・トレイル（NST）という国が定めた長距離の歩道が11本あり、民間の運営団体が情報の受発信やトレイルの維持管理を行っています。その中でも全長3000kmを超える3大トレイルがあり、その一つが今回紹介するパシフィック・クレスト・トレイル（PCT）です。PCTは総距離約4200kmのロングトレイルで、その魅力は圧倒的な自然美、自己探求と達成感、そしてトレイル・コミュニティの絆ではないでしょうか。今号では、日本でロングトレイルの魅力を普及している一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所の長谷川氏にPCTを踏破した紀行を紹介いただきます。

2010年4月22日木曜日、僕はアメリカのカリフォルニア州カンボのメキシコ国境に立った。アメリカ三大トレイルの一つ、パシフィック・クレスト・トレイル（PCT）の全線をスルーハイキングするため。トレイルエンジェル（ハイカーをサポートする人たち）の車に乗って集まった30名程度のハイカー達が、起点のターミナス（注1）の隣に代わるがわる立ち写真を撮っていた。この時期のメキシコ国境は気温が高いはずなのだが、小雪が舞い散る寒いスタートとなった。ここから僕は約5ヶ月にわたる長い歩き旅をすることになる。

PCTではパーミット（許可証）を発行しており現在では年間4000人程度に制限しているが、僕が歩いた2010年のパーミット発行数は400程度と今の十分の1程度しかなかった。

PCTの道の半分を占める カリフォルニア州

この年の降雪量は平均だったが、記録的な人がいたことに感動を覚えた。自分の地域にあることが誇りに思えるようなトレイルがあるのだと知ったのだ。足を痛め絶望した時も、人の優しさが僕を前へと押し出してくれた。歩いた先にあったのは、ただのゴールではなく、静かに心を変える旅だった。

ロングトレイルを歩き続けることは決して一人



パシフィック・クレスト・トレイルの全体図

アクセス

サンディエゴ空港まで日本から12時間

1) 基点のカリフォルニア州カンボまで空港から路線バスを乗り継いで4時間。徒歩にて南ターミナスへ

2) または民間のシャトルタクシー（要予約）
<https://pctsouthernterminusshuttle.com>

連絡先

一社）トレイルブレイズハイキング研究所
東京都港区東麻布2-28-6
admin@trailblaze-hi.org

長谷川 晋

自転車で日本を旅して回ったのが「旅人」としての原点。トレイルネームは「Turtle（タートル）」セレクトショップ、スキー場、山小屋、アウトドアショップなどの勤務を経てハイカーズデポスタッフへ。2010年のパシフィック・クレスト・トレイルスルーハイクの後、その経験を後進ハイカーにブログやイベントなどを通じ積極的に提供。ウェブマガジン TRAILS との共催イベント「LONG DISTANCE HIKERS DAY」をたちあげ、日本人長距離ハイカーコミュニティの中心人物でもある。現在は一般社団法人トレイルブレイズハイキング研究所の代表理事をつとめ、日本における長距離トレイルやハイキング文化発展に奔走している。著書に『LONG DISTANCE HIKING』（TRAILS）がある。



花崗岩の白い岩山の美しさ シエラネバダ（カリフォルニア州）

注1) パシフィック・クレスト・トレイル（PCT）の「ターミナス（terminus）」とは、トレイルの始点または終点を指す

白神山地

●●● 遺産周辺をもっと楽しむ。白神検定チャレンジ！

佐藤和明（環白神エコツーリズム推進協議会 プログラムオフィサー）

1993年、日本で初めて世界自然遺産に登録された白神山地（青森県・秋田県）は、世界最大級の原生的なブナの森が広がる貴重な地域です。この豊かな自然環境を保全しながら地域振興の両立を一層図るため、2011年に「環白神エコツーリズム推進協議会」が設立されました。当会は「価値を深める」「本質を伝える」「人を育てる」の三つを柱に活動し、現在は西目屋村、鰯ヶ沢町、深浦町、弘前市、藤里町、八峰町、能代市、大館市の8市町村の負担金により運営されています。この5月には北秋田市が新たに加わる予定です。

2023年、世界遺産登録30周年を迎えることを機に、「白神検定プロジェクト」が始動。白神山地は保全された自然だけでなく、約8000年前からブナ林と共に生きてきた人々の歴史が息

づく場所です。山菜採りや狩猟、炭焼き、信仰、生活の知恵など「ブナ帯文化」と呼ばれる独自の自然観と暮らしが、継承されています。

この歴史や風土への理解を深め、地域のおもてなし力の向上を目指し、2022年より東京都立大学の山下祐介教授と学生、地域の学芸員と立ち上げた「環白神文化圏研究会」により調査研究が始まり、2025年3月『別冊太陽 環白神の世界』（平凡社）が刊行となりました。本書は、白神山地を軸にその周辺の「環白神」エリアの縄文時代から現代に至る自然と文化に残る、「不思議さと懐かしさ」を呼び起こす物語が記されています。

この書籍を公式テキストとし、第1回白神検定（3級相当）を8月に開催予定。旅行者や観光関係者のみならず、地域住民や自然に関心のあ

る方にも、自らの足元を見つめ、考える機会となることを期待しています。今後は検定とツアーや講座を組み合わせた「旅マエ・旅ナカ・旅アト」のコンテンツ開発を進め、学びと実体験の融合を目指します。自然と文化を守り、伝え、育てる視点を持つ“白神アンバサダー”のような人材が、地域内外に広がっていくことを願いながら、白神検定を起点に新たな共生のあり方を模索していきます。



別冊太陽 環白神の世界



白神検定ロゴ

東京都八丈島

●●● 廃校を活用し地域の魅力化とエコツーリズムの拠点へ

大類由里子（八丈島エコツアーガイド協会 副代表）

八丈島にある5つの集落の中で特に過疎化と人口減少が進んでいる末吉地区にある廃校を活用した「海・山・暮らし館」が4月リニューアルオープンいたしました。



八丈島の海の魅力、大地の成り立ちや特色、人がつないできた暮らしについて映像やイラストを中心に分かりやすく親しみやすい展示となっています。また、ゆっくりと自転車で巡ってもらえるように「ワンダーサイクリング」も始めました。末吉地区のゆったりとした空気感や昔なが

らの町並み、シダ類の多い自然や末吉の海を眺められるセルフガイドの自転車コースです。

この末吉地区には眺望がすばらしい人気の温泉「みはらしの湯」があり、もともと観光客の流れはあったのですが、他に立ち寄り場所もなく観光客は温泉に入るとそのまま別の場所へ移動してしまうという課題がありました。今回の取組は、まずは末吉地区での滞在時間を延ばすというもの。八丈町、末吉住民、地域おこし協力隊、八丈島エコツアーガイド協会が一体となり、さらにエコツーリズムアドバイザーを島外から招致し行政・民間の枠を超え実現しました。

今後は「海・山・暮らし館」を活用した末吉

地区のガイドツアーやイベント等を実施し、ガイド育成システムの構築や、宝探し、そして末吉から始まる八丈島エコツーリズムの拠点として取り組んでいく予定です。



海の教室

青森県十和田市

●●● ガイド養成講座修了者へのガイド団体による「合同説明会」の開催

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

当実行委員会では、令和6年に認定を受けた「奥入瀬渓流エコツーリズム推進全体構想」で示したルールへの掘り下げや、より具体的なルールづくりを行うため、全体構想検討部会の構成員であるガイド団体等との協議の場（以下、「ガイドミーティング」）を令和5年度より開催しています。

昨秋開催したガイドミーティングのなかで、ガイド団体における人材確保・育成の問題や、ガイド養成講座修了後の実践の機会が不足してい



合同説明会の様子

るという課題が挙げられました。また、十和田市では、観光客の受入態勢の充実の指標として「観光ガイド数」を掲げており、当地域における重要なインタプリテーションの手段のひとつであるガイド人材掘り起こしが必要であると考え、「十和田奥入瀬ガイド団体合同説明会」を開催することにしました。

説明会では各ガイド団体の活動説明だけでなく個別相談の場を設けたことによって、ガイド団体への所属を具体的に考えることができる説明会となり、アンケートでは「所属する団体が決まった」「所属する団体の候補が見つかった」と参加者の半数が回答していました。また、実際にガイド団体から「説明会参加者の所属があった」と報告もいただいたことから、マッチングの機会として成果が見える説明会を開催できた

思います。

引き続きこの取組を続けていくと共に、今後もガイド団体等と課題を共有しながら当地域でガイドが一層活躍できる場所と仕組みづくりに向けた検討・実践をしていきたいと思っています。

【対象者】

奥入瀬渓流エコツアーガイド（ネイチャーガイド）養成講座修了生のうち、参加希望者
※講座は令和2年度より実施。（令和4年度を除く。）

【内容】

各ガイド団体の活動紹介（7団体）及び 個別相談

【開催目的】

①今後ガイドとしての活動を希望する方に各ガイド団体の活動を知ってもらうことで、ガイドとしての活躍の場を紹介する。

②奥入瀬渓流周辺で活動する各ガイド団体とガイド人材とのマッチングの機会を創出を図る。

【当日の参加者】 16名

沖縄県北部・東村公認ガイド利用推進条例

河合宏樹（東村役場企画観光課）

世界自然遺産登録を機にIUCN（国際自然保護連合）より4つの事項への対応を要請され、その1つである観光管理の取組として東村公認ガイド利用推進条例の施行の検討を進めて参りました。このような背景を踏まえ、本条例は地域資源の特性及び価値を安心安全で質の高い体験型観光として提供し、保全と利用の調和した地域振興と地域資源の後世への継承に資する持続的観光の実現を目的とし、登録エコツアー事業者及び公認ガイドを東村長が認定する制度としています。

【登録エコツアー事業者概要】

東村内でエコツアーを営む事業者で一定の要件を満たし村長から登録を認められた事業者

【公認ガイド】

登録エコツアー事業者に被雇用、又は契約関係を結びエコツアーを行う者で、一定の要件を満たし、村長から認証を受けたエコツアーガイド。公認ガイドは経験や資格等に応じて登録ガイドと認定ガイドに分けられる。

以上の制度骨子を踏まえ、令和5年3月に東村公認ガイド利用推進条例が施行され、令和6

年度より東村公認ガイドの運用が開始されました。それに伴い、令和6年6月6日（木）東村役場にて「東村公認ガイド認定式」を執り行い、9事業者を登録エコツアー事業者として登録、公認ガイドとして認められた「認定ガイド」8名、「登録ガイド」12名に村長から登録書及び認証証書が交付されました。

この取組により、本村は世界自然遺産地域に相応しいエコツーリズムの推進と地域の持続可能な発展を目指していきます。



公認ガイド認定式

株式会社はとバスによる檜原村とのタイアップ企画 「東京の森へ…檜原村サステナブルツアー」の運行開始

佐藤秀樹（日本エコツーリズム協会 事務局次長）

株式会社はとバス（本社：東京都大田区）では東京都西多摩郡檜原村とタイアップし、エコツーリズムの要素を取り入れた日帰りツアーの運行を5月より開始しました。このツアーは「人と環境にやさしい持続可能な社会の実現をめざし、新たな価値を創造し続ける」という、はとバスのサステナビリティ理念のもと、SDGsの様々な取組の一環として企画され、日本エコツーリズム協会（JES）から檜原村エコツーリズム推進協議会を紹介し実現に至ったものです。

今回は檜原村の「都民の森」におけるエコツアーを中心に村の自然、味覚、温泉を楽しんでいただくコンセプトとなっています。「都民の森」



都民の森セラピーロードでのエコツアー

のエコツアーでは、ウッドチップが敷き詰められた平坦な森林セラピーロードを三頭大滝まで往復90分ほど歩きながら、エコツアーガイドの案内のもと、植物に触れたり、山の音を聞いたり、五感を研ぎ澄ましながら森を感じていただく内容となっています。

また、バス移動については大型観光ハイブリッドバスを使用し環境に配慮するとともに、ツアー代金の一部を檜原村エコツーリズム推進協議会に寄付し環境保全に役立てていただくなど、サステナビリティへの貢献も盛り込まれています。

5月10日出発の第1陣は雨上がりの清々しい中、34名の参加者にツアーを楽しんでいただきました。野生のシカと出会ったり、開花したヤマシャクの群生を見たりなど檜原村の自然にリアルに触れ、皆様癒された感想をお持ちで、エコツアーを十分満喫されていました。

ツアー反響もすこぶる良く、設定日は既に完売となっているようです。

はとバスでは今後もバスツアーを通じ、自然

環境や文化、伝統等の資源を持続的に保つことができるよう取り組まれます。JESでは地域と企業をつなぐ役割を担っていきます。



ツアーで運行したハイブリッドバス



いろいろなセクターにおける
取組を紹介します。

01 エレファント・ケア・ツーリズム タイ王国

タイ国政府観光庁

Thailand

タイでは毎年3月13日は『タイ・エレファント・デー』という象の日。タイの人たちが象を国の大切な動物として尊重し、何世紀にもわたって生活をともにしている大切な家族の一員であることをあらわしています。タイ全土には象が観光業に従事するために3,000頭以上飼育されていて、全国22の県にある250カ所のエレファント・キャンプで暮らしています。かつて象は主に林業に従事するために訓練されていましたが、1989年以降、政府が出した森林伐採廃止の政令により、飼育していた象を自然の生息地に戻すことが難しくなりました。その結果、象は観光産業の中で新たな役割を担うことになりました。『エレファント・ケア・ツーリズム』は、“サステイナブルツーリズム - 持続可能な観光”の一環として、観光産業に従事する象を大切に



写真提供：タイ国政府観光庁

れているタイの象の状況を国際的に（特にタイに旅行者を送るツアーオペレーターに）広めるために3つのCを掲げています。（3つのCについては下の囲みに記載）

タイの国立公園・野生生物・植物保護局の動物福祉への取組

野生の象が3,500頭、家畜として飼われている象が4,500頭いるといわれています。現在では、象の写真、DNA、象使いのプロフィールを含む新しい電子プロフィールシステムに、すべての象が個別に登録されています。また、タイの国立公園・野生生物・植物保護局には独自の獣医チームがあり、すべての動物園を定期的に調査し、動物の世話が適切に行われているかどうかを確認しています。タイ北部ランパーン県には1993年に王室の後援によって設立された「タイ象保護センター」という施設があり、観光客も短いものでは1日プログラムで象の生態や象使いについて学ぶことができます。他にも、ホテルで実施しているエレファント・ケアのプログラムなど、機会があれば観光にプラスして、象と共に長い歴史を歩んできたタイならではの体験を楽しんでみてはいかがでしょうか。



写真提供：タイ国政府観光庁

ランパーン県「タイ象保護センター」

3つのC

- 1. コミュニケーション (Communication)**
タイ国内の象の飼育に関する事実に基づいた情報を提供し、国民の理解を深める必要があります。正確な情報を発信することで人々に広く認識してもらえます。
- 2. 共同作業 (Collaboration)**
タイ人と外国人を含めた観光業界全体で共に、国際的な規範に基づいて活動するためお互いに協力し議論する必要があることを提案しています。
- 3. 歩み寄り (Compromise)**
すべての関係者が納得できる基準を作ること、共通の利益のために前向きに協力し合うことをすすめています。

02 エコツーリズムで紡ぐ生態系の未来： パラオ パシフィック リゾートの環境保全への挑戦 パラオ共和国

Republic of Palau

Yalap P Yalap

(パラオ パシフィック リゾート
ネイチャーセンターマネージャー)

その豊かな生態系により「地上最後の楽園」と称されるパラオ共和国。日本からは直行便で約4時間半という近さで、時差もありません。ここで40年以上にわたり運営を続けているパラオ パシフィック リゾートは、約27万㎡の敷地内に約250mの

プライベートビーチやパラオ固有種の野鳥が息づく裏山を有しています。本リゾートは開発当初から「環境保全と開発の両立」を理念の中心に据え、リゾート前面の海浜整備や裏山の保護等を行ってきました。また、国内外の団体や宿泊ゲストとともに、



絶滅危惧種であるオオシャコ貝やウミガメの放流、サンゴ養殖、植樹、地域清掃といった、パラオの美しい自然環境の保全活動に長期的に取り組んでいます。

環境保全の更なる強化に向け、2025年末には新たにネイチャーセンターを開設します。本センターでは、シュノーケリングやトレイルハイキングなどのフィールドツアーや館



内展示を通じて、パラオの貴重な動植物、文化との繋がり、そしてその背後にある生態系の奥深さを体感体験を提供します。Ridge to Reef（尾根からサンゴ礁まで）をテーマに、海と陸両方の生態系を一挙に体験できるのが本リゾートの大きな魅力です。また、国内外の研究機関等とのパートナーシップにより、パラオの生態系をテーマにしたセミナー・イベントも開催します。

自然の魅力を知を楽しむことは環境保全への第一歩です。この大切な一歩をお客様や地域の皆様と共に重ね、パラオが誇る美しい自然を次世代に引き継いでいきたいと考えています。



飯能産の農産物からご縁をつなげる 公民連携チーム“くるくるはんのう”

第20回 エコツーリズム大賞「特別賞」



産地の一つである狭山茶の淹れ方ワークショップ



集落でのマッチングツアー

「梨のパーベキューソースを作りたい」という相談をいただきました。マッチング事業を始めてから、1対1のマッチングだけではなく、一度に複数の飲食店の方が複数の生産者さんを巡る形にできた方が、より多くのマッチングが実現しています。

飯能市内には露地野菜を始め、茶、果樹、穀類、卵など様々な生産者が農業を営んでいます。生産量は決して多くありませんが、農産物の種類が豊富であり、また、生産者の想いや農法にこだわりがあります。現地で生産者の方からお話を伺い、味わうなかで、農産物やそれらを生み出す生産者の魅力を飯能の宝ものとして、広く多くの方に知っていただきたいと思うようになりました。



未活用素材を使ったクラフトジン

「梨のパーベキューソースを作りたい」という相談をいただきました。マッチング事業を始めてから、1対1のマッチングだけではなく、一度に複数の飲食店の方が複数の生産者さんを巡る形にできた方が、より多くのマッチングが実現しています。

「生産者×クリエイターマッチングツアー」を通じて、行政だけではなく、クリエイター、生産者の方々と一緒に農業を軸に人と人をつなぎ地域の魅力を発信したいと考えています。

片野 陽介

2012年飯能市役所入庁後、7年間エコツーリズム担当として従事後、現職。現職に異動後、飯能市内の農産物やつくり手の魅力を市内外の飲食店を始めとするクリエイターに向けて伝えるべく始めた「生産者×クリエイターマッチングツアー」を現在13回開催している。現在は市職員としての業務の傍ら「くるくるはんのう」のメンバーとして活動している。

From the field

105

エコツーリズムの
現場から

片野 陽介

(飯能市農業振興課主査 くるくるはんのうメンバー)



生産者とクリエイターをつなぐために
マッチングツアーを企画

な企画につながっています。

チームで取り組むために、
くるくるはんのうを立ち上げ